

大人のチカラ

15

～子どもたちの未来のために～

社会のルールを身に付ける③

思いやりの心 育てる「マナー」

ル マナーは「守らないといけない決まり事」、行動」と話すのは、暮らしとマナー講師の後藤ケイ子さん。子どものマナーで親の品格も問われます。普段から子どもの手本となる生活ができていますか？

大切にされたことを 実感させる

3歳までの脳の発達は著しく、この時期に周囲からの愛情に包まれて育てられることが大切です。後藤さんは「マ

ナーの教え時は3歳ごろ。幼いころの習慣は大人になってもなかなか変えられないもの。生活習慣やしつけも合わせて6歳までには、習得させましょう」と、幼児期のマナー習得の必要性を話します。

生活習慣とセットで 身に付けるあいさつ

絶対に押さえておきたいの

相手の立場を理解し、うまくコミュニケーションをとるために必要なのがマナー。マナーには思いやりの気持ちが必要不可欠です。子どもは生活や遊びなどの体験を通して思いやりを育みますが、ルールを教える際と同様に、「自分が大切にされたこと」をきちんと実感させることが重要です。思いやりを育てるには、植物や生き物を育てるのも有効。さらに「親の話を聞く習慣付けを。どんなときも親自身が子どもの話に耳を傾け、目を見て会話をすることで身に付きます。」

は「あいさつ」。生活習慣とセットになった「おはよう」「おやすみなさい」「いたadakimasu」「ごちそうさま」の四つに加え、「一番重要なのがありがとう」です。親切にもらったとき、何かをもらったとき、まずは夫婦間や家庭内で「ありがとう」と言い合う習慣を付けましょう。そうすれば子どもも自然とできるようになります。

近所の大人や幼稚園の先生に対しても、まず親が手本を見せるように。練習はOKですが、「あいさつしなさい」と強制しても身に付きません。「されたらうれしいよね」「気持ちいいよね」など、なぜ行うのか理由を説明しながら繰り返し教えましょう。子どもは親の背中を見て育ちます。公共の場での振る舞いや食事のマナー、姿勢、言葉遣いなど、普段から手本となるよう気を付けたいものです。

